

●国際食料情報学部国際食農科学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

■高一種免（農業）

食と農に関わる幅広い知識の習得と、実習、実験、演習等を通じた実践的な学習により、現場で役に立つ人材の養成を使命としている。農業を専門とする高校教員は、食と農を総合的に結びつけて教えることが必要となってきた。同時に地域社会と結びついた多様な実践的教育活動を行うことがますます要請されている。

上述の学科の性格・目的から「農業科教員養成上の要請に応え、幅広い知識と専門的に掘り下げた知識を合わせもつ教員の養成」を理念とする。この理念の実現のための教員養成の構想として、様式第8号ウに各年次における到達目標を明示し、履修カルテにより到達目標の達成度を確認する。

以上の理念・構想から「食と農の問題を地域社会から捉えるとともに、グローバルな視点で把握し、実践的な教育を行うことができる教員」を国際食農科学科の目指す教員像とする。

②教職課程の設置趣旨

■高一種免（農業）

本学科では、生産から加工、流通、消費に至るプロセスに関する幅広い専門領域にわたる学習と、実習、実験、演習を通じた実践的な教育課程を備えている。

農業高校の教育内容は、農業生産にとどまらず、食品加工、栄養、調理、流通、経営、マーケティング等のテーマを含む総合的な視点が求められるようになってきた。また、制度、文化など食と農をとりまく社会的な背景に対する理解も必要とされ、さらに高校生が地域社会に貢献する活動を行うことに対する期待も高まっている。

本学科では、「植物生産・生理学」「食農野菜学」「食品加工学」「消費経済学」「食育と食生活論」等の科目により食品の生産から加工消費までの基礎的な知識を習得すると共に、「食農政策法制論」「地域活性化論」「比較農業史」「農業経営学」等により、広く社会に対する知識を深める。さらに「食農基礎実習」「食農専門実習」で農産物の生産を実践的に学び、「食農基礎演習」「食農専門演習」において、課題発見、資料の探索、分析、発表、議論などの能力を習得する。また「食品分析学実験」「食品加工品質評価学実習」「食品安全評価学実験」を配置し、食品を扱う基礎的な技能と知識を実践的に身につける。さらに「食農ファームステイ」「食農フィールドスタディ」といった実習科目を通じて、社会的視野を拡げ農産物生産、経営や流通の実態を学び、地域社会における活動方法を身につける。これらの課程を修めることによって、高校「農業」教員の養成が可能であるといえる。

以上のことから、本学科の学修が高等学校「農業」の教育目標と合致するため、高校「農業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。